

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針に「地域社会との交流を図る」を掲げて、買物やユニットで月1回の外出・食事会をして、社会参加及び地域交流を図っている。	○ 職員に外出支援や地域交流の重要性を理解してもらおう。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を復唱している。又、ネームプレートにも入れている。	○ 理念を具体化する等して、ユニット独自のものを作り日々の援助につなげたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を玄関に掲示している他、パンフレットにも明示している。ホーム便りを発行しご家族、運営推進委員、地域に配布や回覧をしている。また、近隣の小学校との交流をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣のグループホームと交流を図っている。また、近隣地域及び小学校の運動会などの見学や交流会を行っている。ホームはいつでも見学できるようになっているが、郊外から離れている為なかなか来られない。包括支援センター主催の認知症の介護教室に職員が参加している。実務者研修の実習を受け入れている。	○ ホームでの活動を地域の方々にわかってもらえるよう、今後は参加しやすい納涼祭を予定したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットにて話し合いをしており、結果が出た後は改善に向けて業務に生かしている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議委員より、第三者の意見としてもらいその気付きを今後に生かしている。次の運営推進会議の議題は、委員からの意見を元に行う。(防災対策について)	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを市町村、ご家族、駐在所、運営推進委員、包括支援センター他、配布している。次の運営推進会議には市町村職員も参加予定である。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業は利用者があるのでいくらか知っているものの全職員への理解には至っていない。管理者はご家族に事業利用に関する情報提供や支援を行っている。	○ 今後は外・内部研修を行い理解を深めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、何かあった場合はすぐにユニットリーダーに報告してもらうようにしている。	○ 内部研修にて今後取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずご家族からの質問をもらえるようにしている。利用者からは日常生活での観察から、表情等に気を付けている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情や普段の会話から、意見や要望を取り入れている。運営推進会議にて利用者からの意見や委員の方からの提案もある。	○利用者からの意見や要望は、ユニットでの話し合いに活かされている。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状況を面会時に報告している。又、風邪や通院時はご家族へ一報を入れている。月一回ホーム便りを送付する他ユニットに写真を掲示し、外出時の表情など見れるようにしている。	写真掲示は、ご家族から好評なので継続していきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、苦情窓口がある旨もご家族へ伝えている。面会時にお茶など出した際など、必ず話をするようにして意見が出せる環境づくりにつとめている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の合同ミーティング、ユニットミーティングの場を設けている。マニュアル作成時も意見を聞き作っている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	生活活動時間帯に夜勤者以外に常勤3名勤務している。急な休み等ある時は、代替職員を配置している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年1回は職員のユニット替えを行っているが、馴染みの関係を考慮し大幅な配置替えはしていない。又、3ユニットあるものの、ユニットがつながっているため、異動等があっても利用者に関わることができる。	○	馴染みの関係と馴れ合いとの違いを、これからも気を付けていきたい。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間のうちに、全職員が外部研修への参加をするようにしている。また、外部研修後は合同ミーティング時に報告し、内部研修としている。	○	外・内部研修で知り得た知識を、ユニットでどう生かせるか、ユニットミーティング時に話さなければならぬ。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター内に3つのグループホームがあり、介護教室を行ったり互いの行事に参加する等交流がある。又、グループホーム協会の研修、総会時に交流や親睦を図っている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	組織で2年に1回の海外慰安旅行やビアパーティ、忘年会などがあり参加している。また、公休希望ノートの活用をし、休みの希望が取れるようにし、リフレッシュしている。	○	職員がストレスを感じていた場合の気付ける努力をしていきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の力量に応じた仕事分担をしてのチームとなっている。又、年度末に決算賞与がある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や申し込み時にゆっくりご家族の話を聴く時間をとっている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みがあった時点で状態把握に努め、他のサービスが必要な場合アドバイスをしている。また、入居にあたっては入居判定会議があり、その他にも管理者とリーダーで随時、話し合いをしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・アセスメントシートの活用にて生活リズム ・生活歴の把握に努めている。また、入居間もない時点での面会を依頼している。(家族の方にも理解してもらう為) ・日常会話の表情などからも本人希望など引き出すようにしている。	○ 本人からも好きな事・物等聞けるよう働きかける。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として接している。家事参加の場面等、一方的にならない様にして、出来る部分での参加を働きかけ、それぞれの方が有用感を持てるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の状態を報告し、ご家族と以前の話しなどをして情報を得て、話題の拡大に努めている。また、誕生会や外出、行事の案内をしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時の家族の話題を基に、利用者と家族の話をして安心してもらっている。また、遠方に住んでおられ、なかなか面会へ来られないご家族には手紙を送る時がある。	○	ご家族の役割がなくならないように、区別する事を学んでいきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回は外出する様にしている。その際には、車中から場所の説明をして記憶の再生につとめている。又、ご家族の面会以外にも知人（友人）の面会がある。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないよう、体調に合わせ、なるべくリビングで過ごしてもらっている。	○	上手く会話のできない利用者には職員が仲に入り、利用者同士がスムーズに会話のできるように努めていく。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	組織系列の施設や病院に移動した方に面会に行くなどして、不安にならないよう配慮している。また、退去後も電話や直接ホームへ来られるご家族もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生会時には希望メニューを聞いたり、外出時には、行き先や食べたいものを利用者の方から聞いている。希望が聞けなかった時には、ご家族や行事等で以前に喜んだりしたものを取り入れるようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族から情報を得ている。また、入居後本人との会話の中から引き出すようにしている。	○ 職員の価値観を押し付けないよう、ユニット内で再確認をしていく。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日によって心身の状態が違うので、状態を見ながら出来る事への働きかけを行なっている。	○ 個別・集団での活動の意味を理解する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活から好きな物・事を見つけるように努めている。又、ご家族からはケアプランの説明時に希望や要望を聞き、取り入れている。	○ 「その人らしく」という部分を知る為に、バックグラウンドをもっと重要視していかなければならない。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった場合、優先順位をつけて、大事・必要と思った物を話し合い、上位から挙げている。	○ 3ヶ月毎にケアプランの見直しをし、ユニット毎に話し合いをしている。又、変わった所はご家族へ説明し、職員へも連絡ノート等で知らせている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践・結果は個人ケースに記入しているものの、気付の部分が足りない。	○	個人ケースの項目の部分に「プラン」と書くようにしているが、未だ定着していない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援時、ご家族の近くのバス停で待ち合わせたり、通院介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム便りの配布（小学校、駐在所、教育福祉センター、包括支援センター、運営推進会議委員等）している。また、運営推進会議での意見交換をしている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	まだ必要と希望される方はいないが、地域のほかのケアマネジャーとの交流がある。。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には地域包括支援センターの方が出席されたり、包括支援センター主催の会議に出席している。現在権利擁護を使っている対象者はいない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後の検討課題。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には、前の利用していた事業所からのケア情報がある。又、入居時にご家族からの情報もいただいている。また、他施設等に移動する場合、情報交換をしている。また、他施設に入居後面接に行っている。		
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉掛けは、利用者の意欲が出るような声掛けをするように努めている。また、不適切な声掛けの時は職員同士注意し合っている。	○	職員間での声のトーンに配慮していかなければならない。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外食のメニュー決めや好みの確認等、その人に合わせた声掛けをするように気を付けて自己決定できるよう働きかけている。	○	場面に応じた言葉掛けが出来るように、利用者から日々学んでいきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ペースを意識しているがときとして業務優先になっていることがある。	○	利用者主体という意識をしっかりと持ち、業務の優先順位を決められるように努力する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	通い慣れた美容院での利用を望む利用者やご家族は今の時点ではないが、理容院でなく美容院でと希望するご家族もあり対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているものの、希望食づくりをしたり、外食、個別の誕生日会で好物を取り入れるようにしている。また、準備や片付けもそれぞれ役割（日課）を持っている。	○	食事や盛り付け、後片付け等も利用者と一緒に行なっている。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや買出し時に、希望を尋ねたりして買ってきている。その利用者好みに応じた飲み物やおやつ提供に努めている。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべく失敗が少なくなるように時間毎のトイレ誘導や状態に応じた対応をしている。	○	誘導や交換の際、他利用者に気付かれないようにもう一度話し合いが必要。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は13時30～16時で、それ以外での入浴は事故へのつながりがある為、行っていない。ただし、便失禁時等は例外で入浴介助している（他職員の協力を得て）。入浴は本人に意志を聞くようにしている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の個性を尊重しながら、その日の状態に合ったかわりをしてしている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	活躍できる場面を大切にしている。生活歴をふまえた上で、ホームに入られてから喜んだ事等も取り入れている。	○	個々の状態に応じて、茶碗拭きや洗濯たたみ、食事の準備等の役割をもってもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	リスク面を考え、自己管理の出来ない利用者に対しては、ご家族とも話し、小銭程度にしている。また、ご家族と金銭管理契約をしている方には、預かっている旨伝え安心して買い物できる事をその都度話している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の外出の他に、おやつのお買い物や天気のいい時は個別でのドライブをしている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ユニット単位で外出を毎月行なっている。その際はご家族に参加を働きかけている。ただ、高齢の為に遠出は出来ないが外出と外食を兼ねて行なっている。	○	今日が特別な日、心が弾む日が毎月でなくても何度かは取り入れていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話があり、希望があればいつでも対応している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間以外でも事前の電話でいつでも面会可能となる旨をご家族へ伝えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はした事はないが、全職員がその内容を理解していない。	○	わかりやすい書面や絵等にし、全職員を知らせる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	救急法を定期的に学び、技術を習得したい。
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	プランの説明時、病気や状態（レベル）に応じたリスクがある事を伝えている。	○	リスクがあってもその先にある楽しみや喜んだ表情がある事を理解してもらうよう働きかけていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	何かおかしいと感じた場合、すぐにバイタルを測り、リーダーもしくは管理者へ報告することを全職員が徹底し行なっている。	○	いつもと違うと感じた場合は細かな記録をとり、いつでも見られるようにしている。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や経過をみたい場合には、連絡ノートを活用している。	○	投薬箱に薬をセット後、もう一度2人の目で再確認をしている。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や体操を行なっている。	○	水分と体操、薬の他に、おやつ工夫等をしていきたい。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後その利用者に合わせた口腔ケアを行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせてカロリーメイトを飲んでもらったり、好きなおやつを食べてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	青い森病院の勉強会に参加し、感染症対策のマニュアルがある。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	給食委員を中心にマニュアルがあり管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には花を飾っており、出迎えも行なっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾で季節感を出しているが、職員の声のトーンの配慮が足りない。	○	不快感がもたらす利用者への影響を理解する。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、団らんスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好きなものをできるだけ持って 来てもらうようご家族へ伝えている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	利用者からの声や職員が不快と感じた場合（温度 計）には換気をしている。（冬期間は特に注意し ている。）		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	バリアフリーであるが、転倒に配慮した環境作り をしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	入居当初はトイレやリビング等混乱しないように 声掛けや張り紙をしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	他ユニットへも自由に行き来している。外の花壇 には、花のほかに野菜などを植えて実りの楽し みを味わっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・しらかばユニットは認知症のレベルが高い方や高齢の方が暮らしている。そのためか、自ら「あれがしたい」等の希望も少ない為、希望や望みを引き出す為に、面会時にご家族から情報をもったり、これまで行なってきた個別誕生会や月一回の外出時の反応を見ながら、行事や食事会、日常会話に生かしている。

・個人のレベルに合わせて、夕方の味噌汁作り、食事時のお絞りの準備、食器拭き、米とぎ、洗濯たたみをする等、それぞれの方に、役割を持ってもらうようにしている。

・月1回のユニットでの外出の他に、縄文いきいき教室に参加する等個別でも対応している。

・孫が昔話を読んで聞かせているような感覚で、東奥日報に掲載されている昔話を職員が音読したり、利用者の方に読んでもらったりして刺激を与えている。